

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2011年6月)

発表日: 2011年7月29日(金)

～夏場も底堅く推移する可能性が高まる～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL: 03-5221-4528

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
10	1-3月	7.4	28.0	7.5	26.9	1.5	▲ 6.1	▲ 7.3	▲ 28.9	14.4	6.4	3.8	23.4
	4-6月	0.7	21.3	0.7	21.7	2.6	1.2	0.2	▲ 22.1	4.7	29.1	0.1	13.5
	7-9月	▲ 1.0	14.0	▲ 0.8	14.4	0.4	3.5	2.1	▲ 12.9	4.1	30.8	1.2	12.0
	10-12月	▲ 0.1	5.9	▲ 0.3	6.4	▲ 0.6	3.8	2.1	▲ 2.8	1.2	23.9	▲ 1.2	4.0
11	1-3月	▲ 2.0	▲ 2.5	▲ 1.9	▲ 2.6	1.0	3.5	▲ 3.7	0.4	▲ 2.4	6.6	▲ 7.8	▲ 8.3
	4-6月	▲ 4.0	▲ 6.8	▲ 5.8	▲ 8.3	3.2	4.0	11.4	12.0	6.0	8.9	▲ 6.1	▲ 12.9
10	1月	3.4	18.2	4.0	19.6	1.0	▲ 12.2	▲ 1.8	▲ 27.3	5.4	▲ 7.1	▲ 0.4	15.5
	2月	1.7	33.1	1.7	30.0	1.6	▲ 7.4	▲ 0.6	▲ 29.9	9.2	11.1	2.9	26.8
	3月	0.1	32.4	0.6	30.4	▲ 1.0	▲ 6.1	▲ 3.7	▲ 29.7	0.4	12.3	1.1	26.8
	4月	0.6	27.0	0.6	27.3	0.6	▲ 3.5	1.5	▲ 25.7	1.4	29.1	▲ 0.7	21.4
	5月	▲ 0.1	20.7	▲ 1.2	21.0	1.4	▲ 0.9	2.4	▲ 22.8	▲ 3.0	23.6	▲ 1.4	10.3
	6月	▲ 1.5	16.6	▲ 0.1	17.6	0.6	1.2	▲ 0.6	▲ 17.1	6.6	33.7	0.2	9.9
	7月	0.3	14.6	0.0	14.7	▲ 0.2	1.3	2.0	▲ 14.5	1.0	34.7	0.9	10.6
	8月	▲ 0.1	15.5	▲ 0.3	15.8	0.4	2.5	▲ 0.9	▲ 13.9	▲ 1.0	30.4	0.8	13.3
	9月	▲ 0.8	12.1	▲ 0.2	12.9	0.2	3.5	1.0	▲ 10.0	1.6	28.1	0.3	12.2
	10月	▲ 1.4	5.0	▲ 2.4	4.4	▲ 0.5	3.9	7.2	▲ 0.7	1.1	28.0	▲ 2.8	2.5
	11月	1.6	7.0	2.9	8.7	▲ 1.7	2.0	▲ 7.7	▲ 6.3	▲ 1.3	24.0	1.9	6.8
	12月	2.4	5.9	1.3	5.9	1.6	3.8	0.0	▲ 1.6	0.8	20.7	▲ 0.2	2.6
11	1月	0.0	4.6	▲ 0.8	3.2	3.9	7.0	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 3.0	16.4	▲ 4.6	▲ 0.6
	2月	1.8	2.9	3.3	3.6	1.5	6.9	▲ 3.3	▲ 2.8	8.2	12.9	4.1	▲ 0.7
	3月	▲ 15.5	▲ 13.1	▲ 14.6	▲ 12.1	▲ 4.2	3.5	4.1	5.1	▲ 13.9	▲ 3.1	▲ 18.8	▲ 20.2
	4月	1.6	▲ 13.6	▲ 2.6	▲ 16.1	0.5	3.3	14.9	18.9	8.0	1.9	▲ 7.3	▲ 26.7
	5月	6.2	▲ 5.5	5.3	▲ 8.0	5.6	7.7	▲ 3.3	12.2	8.4	16.9	12.9	▲ 13.4
	6月	3.9	▲ 1.6	8.5	▲ 1.5	▲ 2.8	4.0	▲ 7.3	4.7	0.7	8.8	17.6	0.0
	7月	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8月	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)7、8月は、製造工業生産予測調査の数値

○ サプライチェーン復旧を背景に生産は持ち直し

経済産業省より発表された2011年6月の鉱工業生産は前月比+3.9%（5月：同+6.2%）となり、ほぼ市場予想（+4.3%）通りの結果となった。サプライチェーンの復旧を背景に高い伸びが続いている。また、電力不足の悪影響顕在化が懸念されていた7、8月についても、生産予測指数ではそれぞれ増産（7月：+2.2%、8月：+2.0%）が見込まれていることも踏まえると、ヘッドラインの数字以上に良好な結果と言えるだろう。

6月の生産上昇の牽引役になったのは自動車であり、輸送機械工業が前月比+18.5%と、前月（同+36.6%）に続いて急増している。サプライチェーンの復旧により供給制約が和らいでいることが背景にある。輸送機械だけで生産を2.5%ポイント押し上げており、6月の生産増加のうちかなりの部分が説明可能である。そのほか、携帯電話やデジカメなどが上昇した情報通信機械が前月比+11.5%となったほか、電子部品・デバイスも同+5.3%となった。在庫調整により減産が続いていた電子部品・デバイスが4ヶ月ぶりにプラスに転じた（在庫も減少）ことは好材料である。

○ 電力不足への対応が進み、7、8月も増産計画

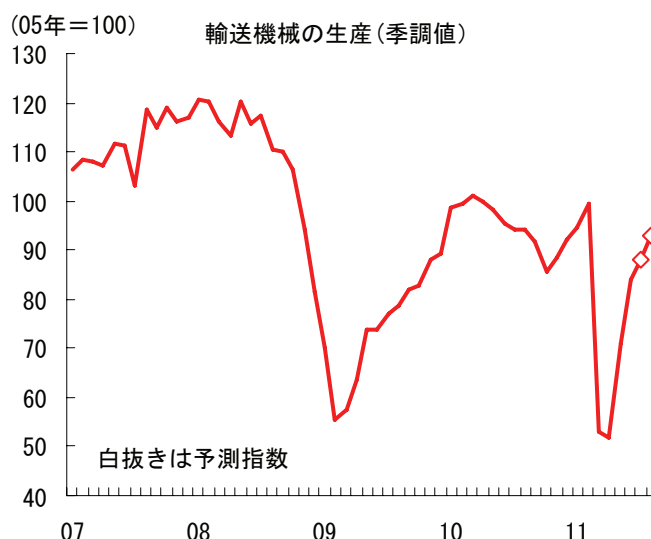
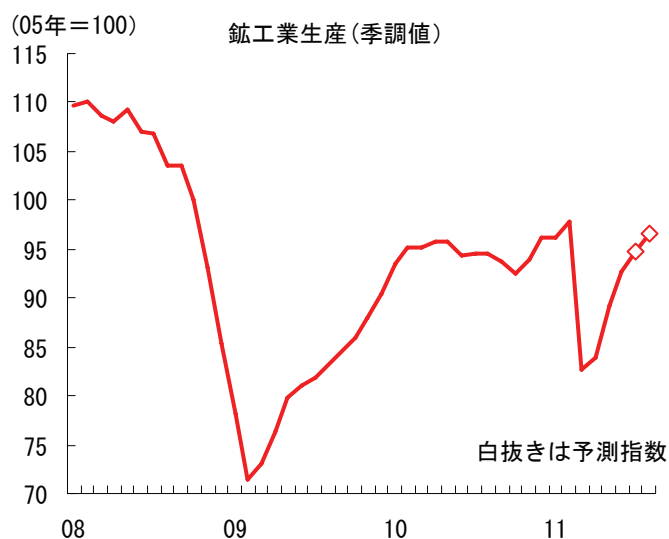
注目されていた製造工業生産予測指数は、7月が前月比+2.2%、8月が同+2.0%となった。5、6月の伸びにはさすがに及ばないが、比較的高い伸びが見込まれており、夏場の生産も底堅く推移する可能性が高

まった。前月調査時点では、7月の予測指数は前月比+0.5%にとどまっておられ、電力不足の影響から夏場の生産は急激に鈍化するとの見方も出ていたが、今回調査で7月分が上方修正（予測修正率は+0.7%）され、8月分も高い伸びになったことで、こうした懸念は和らいだ。平日休業・土日出勤、深夜電力の活用など、ピーク時の電力使用量を平準化させる形での企業の節電対応が進んだことで、電力不足の生産への悪影響を最小限にとどめることができたと考えられる。予測指数を業種別に見ると、7月は地デジ移行に伴うテレビの駆け込み需要の影響から情報通信機械が前月比+18.5%と高い伸びになっているほか、輸送機械も同+4.6%と、5～6月に比べると伸びは鈍化するものの増産が続く計画になっている。また、8月については、11業種中9業種が増産を見込んでおり（減産計画は情報通信機械とその他の2業種）、生産回復の裾野が広がっていることが示唆されている。

7、8月が予測指数通り、9月が前月比横ばいと仮定すると、7-9月期は前期比+8.0%になる。4-6月期は前期比▲4.0%と大幅な減産となったが、ゲタの関係もあって7-9月期が大幅増産になることはほぼ確実である。なお、予測指数通りであれば、8月の生産水準は震災前である2月の98.7%にまで回復する見込みである。9月にも震災前の水準を回復する可能性が高いだろう。

○ 当面順調な拡大が予想される

秋以降についても、電力不足の悪影響が夏に比べて緩和することに加え、自動車の増産が続く可能性が高いこと、復旧需要の顕在化などが期待でき、増産傾向が続くだろう。政府対応の遅れや円高、海外景気の鈍化などが懸念される場所ではあるが、少なくとも年内については生産は堅調に推移する可能性が高い。



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」